

気づき合う講座

ダイバーシティ・スイッチ2020

参加無料

オンライン開催

ダイバーシティ(diversity)は日本語に訳すと「多様性」。「スイッチ」は切り替えという意味です。三重県では、社会の中のさまざまな多様性を感じる講座を通して、自分の中の価値観や他者との違いに気づき、他者を思いやることのできる多様性社会に切り替えていく、気づきの場として「ダイバーシティ・スイッチ」を開催します。

講座 & ワークショップ

職場・学校・地域・家庭で活かせる

「問い」からはじまるコミュニケーション

性別、年齢、国籍、考え方、性格などさまざまな違いから「わかりあえない」と感じるときはありませんか。その背景には、思い込みや偏見、固定観念などがあるかもしれません。お互いの違いや問題の本質に気づき、よりよいコミュニケーションに向かうためには、「よい問い」を立てることが有効です。「価値観の違い」と諦める前に、無意識の先入観や固定化された関係性を刺激する“問う力”を手に入れませんか。

第1回 問いを知る

日時 10/15(木)19:00-21:00

そもそも問いて何でしょうか。「当たり前」と感じていることも「なぜ？」を問い直すと新しい視点が生れたり、「よい問い」を設定すると深い対話や新たな発想が生れたりします。多様性の時代になぜ「問う」ことが大切なのかを学びます。

第2回 問いをつくる

日時 11/6(金)19:00-21:00

問いをつくるときには、質問や問いかけのスキルだけでなく、ものごとの本質を捉え、問いをデザインする力が必要になります。職場や地域活動、家庭などで活かせる問いのつくり方を実際のワークを通して学びます。

●どちらかみの参加も可能ですが、連続して受講いただけるとより効果的です。

開催方法(各回共通)

Zoomを活用したオンライン開催

※お申込いただいた方に開催2日前までに参加用URLをメールでお伝えします。
※ご参加にあたりZoom(5.3.0以上)のダウンロードまたは更新をお願いします。

定員(各回共通)

30名(先着順)

※ご参加にはお申込みが必要です

講師

しおせ たかゆき

塩瀬 隆之氏

京都大学総合博物館
准教授



京都大学大学院工学研究科修了、人工知能による熟練技の伝承システムの研究で博士(工学)。2012年経済産業省課長補佐(技術戦略担当)。2014年京都大学総合博物館准教授 復職。経済産業省産業構造審議会イノベーション小委員会委員。2020年大阪・関西万博日本館基本構想ワークショップ有識者。NHK Eテレ「カガクノミカタ」番組制作委員。著書に『インクルーシブデザイン』(学芸出版社、2014)、『問いのデザイン』(学芸出版社、2020)。

こんな方におすすめ

- 職場など身近な人間関係をよりよくしたい人
- ものごとを柔軟に考えられるようになりたい人
- 自分や相手の“隠れた本音”を引き出したい人
- 多様な人の考えや価値観に触れたい人
- 組織のダイバーシティ推進担当者 など

きらり
ともに輝く、多様な社会へ



ダイバーシティ(diversity)は、日本語に訳すと「多様性」です。三重県では、一人ひとりが尊重され、多様性が受容され、違った個性や能力を持つ一人ひとりがよい意味でお互いに影響し合うことで、相乗効果を社会に生み出す「ダイバーシティ&インクルージョン」の意味も込めて「ダイバーシティ」の言葉を使用しています。三重県では都道府県で初めてダイバーシティ推進方針を策定し、取り組みを進めています。

詳しくは… [ダイバーシティみえ](#)

検索

お申し込み方法

本講座には事前申込が必要です。右記の専用フォームまたはEメールのいずれかでお申込みください。Eメールの場合は、タイトルを「ダイバーシティ・スイッチ申込」として「参加ご希望の回」「お名前」「ご所属(個人の場合は不要)」「電話番号」「メールアドレス」を本文にご記入ください。

※×切は各開催日の3日前または「定員が埋まり次第」です。

【Eメール送信先】 csr@tsutaetai.jp (NPO法人Mブリッジ 宛)

